令和3年度花き産業成長・花き文化振興対策等委託事業

報告書

令和4年3月

株式会社環境風土テクノ

目 次

業務の概要	1
(1) BIE の認定申請書の内容作成補助業務	1
(2) 国際園芸博覧会計画具体化検討の補助業務	1
(3) 国際イベント等における情報発信方法の検討	2
1. BIE の認定申請書の内容作成補助業務	3
1-1 認定申請に関する資料の作成補助	3
2. 国際園芸博覧会計画具体化検討の補助業務	3
2-1 国外既往事例調査	3
2-2 政府出展の意義・役割	40
2-3 テーマ・コンセプト(案)及び出展内容(案)検討	49
2-4 経済波及効果検討	49
3. 国際イベント等における情報発信方法の検討	50
3-1 情報発信方法の検討及び広報資材の企画・作成	50
4. 納品物	74

参考文献

巻末

- ・2006年チェンマイ国際園芸博覧会最終報告書 抜粋(抄訳)
- ・2016年アンタルヤ国際園芸博覧会最終報告書 抜粋(抄訳)
- ・2019年北京国際園芸博覧会最終報告書 抜粋(抄訳)

業務の概要

我が国の花き産業の国際競争力強化や花き文化の国際的な発信を進めるため、国際園芸博覧会の政府出展において高品質な国産花きと花き文化を紹介することにより、花きの新たな需要創出・拡大を図り、花き産業の成長産業化に寄与しているところである。

2027年に横浜市で開催を予定している国際園芸博覧会については、2021年度からBIE(博覧会国際事務局)の認定に向けた協議を進め、認定申請の承認を得る必要がある。このため、令和3年度本事業においては、国際園芸博覧会としての開催に向けたBIEに提出するための認定申請書の内容作成やBIE対応に必要な補助業務等を行うとともに、国際園芸博覧会の関心を高めるための検討を行うものである。

(1) BIEの認定申請書の内容作成補助業務

日本語で作成された認定申請書の英語訳及び仏語訳を行う。

(2) 国際園芸博覧会計画具体化検討の補助業務

以下の各種調査及び各種資料の作成・検討を行う。

① 国外既往事例調査

過去の博覧会における政府出展の内容(概要、テーマ等)、規模、実施主体、博覧会後の取扱い、意思決定機関等について、調査及び分析・評価を行う。

② 政府出展の意義・役割

国際園芸博覧会の開催意義、国の推進施策、既往事例(過去博、海外博)等を踏まえ検討を行う。

③ テーマ・コンセプト(案)及び出展内容(案)検討

政府出展の意義・役割を踏まえ、政府出展のテーマ、コンセプトを検討し、どのような出展形式、出展内容が想定されるか、何を表現するか等について検討を行う。

④ 経済波及効果検討

令和元年度に検討した「国際園芸博覧会の経済波及効果等」について、その後の条件の変化に伴い、改めて経済波及効果の再検討を行う。

(3) 国際イベント等における情報発信方法の検討

BIE加盟国をはじめ世界各国に横浜国際園芸博覧会のテーマ及び会場計画、横浜市の魅力を発信し、参加に向けた国際的な機運醸成することを目的として、BIE加盟国が参加する会議やその他国際イベント等の機会をとらえ広報資材を企画・作成するとともに、国内での広報の実施等、情報発信の方法を検討する。

1. BIE の認定申請書の内容作成補助業務

1-1 認定申請に関する資料の作成補助

BIE へ提出する認定申請書の内、一般規則(案)、参加契約書(案)の日本語原稿に対して、それぞれ英語訳、仏語訳を行った。

2. 国際園芸博覧会計画具体化検討の補助業務

2-1 国外既往事例調査

既往国際園芸博覧会の状況を把握し、2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会の規模や内容、政府出展のあり方を客観的に評価するための資料を作成する。データとして用いたのは、BIE公式ホームページに掲載されている資料、AIPH資料、博覧会公式記録等である。

【調査対象博覧会 18事例】

01. 1960年フロリアード・ロッテルダム (オランダ)
02. 1963年IGA・ハンブルグ (ドイツ)
03. 1972年フロリアード・アムステルダム (オランダ)
04. 1973年IGA・ハンブルグ (ドイツ)
05. 1982年フロリアード・アムステルダム (オランダ)
06. 1983年IGA・ミュンヘン (ドイツ)
07. 1984年リバプール国際庭園博覧会 (イギリス)
08. 1992年フロリアード・ハーグ・ズータメア (オランダ)
09. 1993年IGA・シュツウットガルト (ドイツ)
10. 1999年昆明世界園芸博覧会 (中国)
11. 2002年フロリアード・ハールレマミーア (オランダ)
12. 2003年IGA・ロストック (ドイツ)
13. 2006年チェンマイ国際園芸博覧会 (タイ)
14. 2012年フロリアード・フェンロー (オランダ)
15. 2016年アンタルヤ国際園芸博覧会 (トルコ)
16. 2019年北京国際園芸博覧会 (中国)
17. 2022年フロリアード・アルメレ (オランダ)
18. 2023年ドーハ国際園芸博覧会(カタール)

図表 1 既往事例調査(01)

名称	FLORIADE EXPO 1960 ROTTERDAM 1960 フロリアード・ロッテルダム(蘭) EXPO 1960 ロッテルダム		
会期	1960年3月25日～9月25日		
開催国	オランダ	開催地	ロッテルダム ヘット パーク
入場者数	約 400 万人		
規模	面積 50ha		
テーマ	International Horticulture 国際的園芸		
モットー	Seed to Strength 種子から強さへ		
概要	<p>・1960 フロリアード・ロッテルダム(蘭)(以下、「EXPO 1960 ロッテルダム」という。)は、博覧会国際事務局(BIE)の承認のもとに開催された最初の園芸博覧会であり、1959年5月5日のBIE第43回総会で正式に承認された。1960年3月25日、後に女王となるベアトリクス王女によって開会され、その後10年ごとにオランダで開催されているフロリアードの第1回目の開催となった。</p> <p>・EXPO 1960 ロッテルダムの準備のため、造園家のJ.T.P.BijhouverとM.J.Vroomが1958年にヘットパークを再整備した。建築家のH.A.マアンスカントが設計したユーロマスト展望台も建設された。EXPO 1960 ロッテルダムのヘットパークでは、展示会のほとんどが開催された。J.H.R.ファン・クールワイクが設計した、18世紀風の庭園が新たに作られ、カントリー・エステートであるデ・ヒューベルを囲んだ。公園の西端に沿って、庭園・造園家のC.P.ブローゼが、野生動物園を作り、「森と野原」セクションのテーマを反映した膨大な種類の固有植物を受け入れた。公園とデ・ヒューベルの間にある大きな溝もシャクナゲの谷に生まれ変わり、オランダや海外からの参加者による仮設のフラワーディスプレイがヘットパークを彩った。1950年代に建設されたコンベンションセンター「アホイホール」と「エネルギーホール」を中心に、屋内でテーマ別の展示プログラムが展開された。</p> <p>・当時、オランダで最も高い建物であった高さ101mのユーロマスタワーの最上階に登ると、ヘットパークや街、港などが一望できた。1時間に約四千人が利用した高さ30mのケーブルカーからも、会場を見渡すことができた。</p>		

博覧会後の取扱い	•EXPO 1960 ロッテルダム最大の遺産のひとつは、現在も見られるヘットパークの変貌である。ユーロマストは、ロッテルダムで最も高いビルとして急速に他のビルに追い抜かれたが、1970年に高さ85mのスペース・タワーがかさ上げされたことで、再び市内で最も高いビルとしての地位を取り戻した。戦後の建築の試みとして、現在もロッテルダムの象徴的な建物である。
----------	--

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1960-rotterdam>)

図表 2 既往事例調査(02)

名称	IGA EXPO 1963 HAMBURG 1963 IGA・ハンブルグ(独) EXPO 1963 ハンブルグ		
会期	1963年4月26日～10月13日		
開催国	西ドイツ	開催地	ハンブルグ プランテン・ウン・ブローメン公園
入場者数	約 540 万人		
規模	面積 76ha		
テーマ	Horticulture of all Categories from the Point of View of Economics and Culture 経済と文化の観点から見たあらゆるカテゴリーの園芸学		
概要	<p>・1963 IGA・ハンブルグ(独)(以下、「EXPO 1963 ハンブルグ」という。)は、1850年から続くハンブルクでの国際園芸博覧会で、最新のものは1953年に開催された。1938年に開発された「プランテン・ウン・ブローメン(植物と花)」公園を中心とした会場は、1953年のIGA開催時にも使用された。1963年のIGA開催に向けて、ハンブルクの街は様々な変化を遂げた。新しい水場が作られ、高速道路の下に歩行者用通路が作られ、ミレルトルと植物園が結ばれた。植物園はベルンハルト・ハームケスが設計した幾つかの温室を建設して拡張された。第二次世界大戦中に破壊されたウォールグラベン要塞が復元され、エリアの南北を結ぶ新しい橋が建設された。新たに開発されたEXPO会場の一部は、プレイエリアや高台にある水辺のカフェなどが建設された。</p> <p>・「Planten un Blumen」では、熱帯温室のほか、1.5 kmの鉄道やケーブルカーが設置され、会場内の国立庭園や池、近未来的なレストランなどを見渡すことができた。1963年のIGAの歴史的背景からすると、国際的な参加は重要であるが、東西ドイツの問題を避けるために、社会主義国には公式な招待状を送らなかった。国際的な展示は、「プランテン・ウン・ブローメン」に隣接する「ハレ・デル・ネイション」や、EXPO 1963 ハンブルグ会場を横切るように配置された「ナショナル・ガーデン」で行われた。会場の再開発により、ハンブルクの「グリーン・ラング」と呼ばれるエリアは一変し、現在に至っている。</p>		
博覧会後の取扱い	<p>・ケーブルカーはEXPO 1963 ハンブルグ後に撤去されたが、鉄道は1973年に開催されたIGAまで残っていた。植物園の温室は、現在、旧植物園として知られており、ハンブルクで最もよく知られているアトラクションの一つとなっている。</p>		

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1963-hamburg>)

図表3 既往事例調査(03)

名称	FLORIADE EXPO 1972 AMSTERDAM 1972 フロリアード・アムステルダム(蘭) EXPO 1972 アムステルダム		
会期	1972年3月26日～10月1日		
開催国	オランダ	開催地	アムステルダム アムステルパーク、ビアトリクスパーク、 アムステルダム RAI エキシビション&コ ンベンションセンター
入場者数	約430万人		
規模	面積 75ha		
テーマ	Efforts accomplished by International Horticulture 国際園芸の取り組み		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1972 フロリアード・アムステルダム(蘭)(以下、「EXPO 1972 アムステルダム」という。)は、フロリアードの2回目の開催である。1969年11月14日の第66回総会でBIEに正式に承認され、3月26日から10月1日まで開催された。 ・400万人以上の来場者を迎えた今回のEXPO 1972 アムステルダムは、アムステルパーク、ベアトリクスパーク、アムステルダム RAI エキシビション&コンベンションセンターで開催された。アムステルダム南部のアムステル川沿いに位置するアムステルパークは、バート・モス社がこのイベントのために特別に造成したもので、屋外展示の一部が行われた。 ・1936年にオランダの造園家ヤコバ・ムルダーが設計したベアトリクスパークは、屋外の展示を行うために再設計され、12,000 m²の広さを誇るアムステルダム RAI エキシビション&コンベンションセンターでは屋内展示が行われた。それぞれの会場は、フロリアード電車、ケーブルカー、エキスポカー、高さ40mのゴンドラなどで結ばれ、来場者は会場間を容易に移動することができた。 ・メイン会場となった約70haのアムステルパークには、4万本以上のダリアを展示した「ダリアラマ」や、8,000本以上のシャクナゲを展示した「シャクナゲの谷」など、園芸品種に合わせたセクションが設けられた。その他、ロザリウム、ユリ展、バタフライガーデン、温室、カスケードガーデンなど、アムステルパークの重要な見どころがあった。 ・アムステルパークは、世界中の植物を紹介する国際部門である。ベアトリクスパークには、Artsenijhofをはじめとするいくつかのパビリオンや展示があり、薬用植物全般、薬用水草、熱帯・亜熱帯の薬草などが展示された。 ・アムステルダム RAI 展示コンベンションセンターでは、会期中、11の臨時の屋内展 		

	<p>示が行われた。エキゾチックな植物から国際的なフラワーアートまで、様々なテーマの展示が行われ、教材やエンターテイメントも充実していた。ヨーロッパ大通り沿いの EXPO パビリオンでは、多くの映画館や展示会が開催された。</p>
<p>博覧会後の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> •EXPO 1972 アムステルダム遺産は、現在もアムステルダムの街に息づいている。幾つかの変化はあったものの、ベアトリックスパークとアムステルパークは、アムステルダム市民や観光客に人気のある公園として続いている。 •アムステルパークには、EXPO のモニュメントとして、ロードデノン溪谷、ロザリオ、オランジェリーなどがあり、現在も多くの観光客が訪れている。フロリアードもまた、アムステルパークの構造に大きな影響を与えた。テーマ別の庭園やパビリオン、広々とした大通りや小道、アベニューは、当時の特徴をよく表している。 •ベアトリックスパークでは、パビリオンは、アルステンヒヨフやフロリアードのために作られた特別な庭園とともに、今も残っている。2005 年には、公園の最も古い部分が市の記念建造物に指定された。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1972-amsterdam>)

図表 4 既往事例調査(04)

名称	IGA EXPO 1973 HAMBURG 1973 IGA・ハンブルグ(独) EXPO 1973 ハンブルグ		
会期	1973年4月27日～10月7日		
開催国	西ドイツ	開催地	ハンブルグ プランテン・ウン・ブローメン公園
入場者数	約 580 万人		
規模	面積 76ha		
テーマ	International Horticulture 国際的園芸		
モットー	Window to the city 都市への窓		
概要	<p>・1973 IGA・ハンブルグ(独)(以下、「EXPO 1973 ハンブルグ」という。)は、EXPO 1963 ハンブルグから10年後にハンブルグで開催されたBIE承認の2回目の園芸博覧会である。1970年11月17日に総会で承認されたこの博覧会は、1973年4月27日から10月7日まで一般公開され、その間に580万人の来場者があった。前回と同様、EXPO 1973 ハンブルグ はハンブルグの公園「Planten un Blomen」で開催された。</p> <p>・EXPO 1973 ハンブルグの主催者は、ハンブルクのエコロジー計画を参考にした。この計画は、イベントのオープニングを飾った連邦共和国のグスタフ・ハイネマン大統領も支持した。EXPO 1963 ハンブルグ以来、会場は何度も改修された。EXPO 1973 ハンブルグ会場のコンセプトを再定義し、来場者の体験を重視し、“来場者の足元がぬれないこと”にこだわった。</p> <p>・「プランテン・ウン・ブローメン」と「旧植物園」、「ワランラーゲン(要塞)」を合わせて1つの万博会場とした。これは、マルセイユ通りの一部をトンネルで掘り下げ、2つの間にガーデncrossオーバーを作ることで実現したもので、グリーンブリッジの初期モデルとなった。会場の端には、コンGRESS・センター・オブ・ハンブルグ(CCH)と108mのホテルという2つの大きな建物が建設され、会場のパノラマを一変させた。</p> <p>・EXPO 会場内では、工業化された世界を反映した新しい形や色に焦点を当て、EXPO 1963 ハンブルグに比べて展示が進化していた。EXPO 1973 ハンブルグでは、アートが重要な役割を果たし、来場者は164日間の万博期間中、文化とエンターテインメントの広大なプログラムを楽しむことができた。このプログラムのひとつとして、ハンブルクの若い芸術家たちは、一般の人々と会って自分たちのビジョンを発表することで、EXPO に貢献することを求められた。50の国際的な参加者によ</p>		

	<p>って、来場者は世界中の植物や庭園を発見することができた。その中には、スウェーデンの木製の遊び場、イタリアのトスカーナの風景、イギリスの多年草の庭園などが含まれていた。</p>
<p>博覧会后 の取扱い</p>	<p>・荒木経惟が設計した「日本庭園」やカール・プロミンの「スプリング・アンド・トロピカル・ガーデン」も、EXPO 1973 ハンブルグのハイライトであり、現代の公園にも受け継がれている。</p>

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1973-hamburg>)

図表5 既往事例調査(05)

名称	FLORIADE EXPO1982 AMSTERDAM 1982 フロリアード・アムステルダム(蘭) EXPO 1982 アムステルダム		
会期	1982年4月8日～10月10日		
開催国	オランダ	開催地	アムステルダム ガースパーパーク
入場者数	約460万人		
規模	面積 50ha		
テーマ	International Horticulture 国際的園芸		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1982 フロリアード・アムステルダム(蘭)(以下、「EXPO 1982 アムステルダム」という。)は、1979年6月20日にBIEによって正式に承認され、アムステルダムで開催された2回目、オランダで開催された3回目の園芸博覧会である。 ・EXPO 1982 アムステルダムの会場は、ガアスペ川の西側に位置する人工湖「ガアスペルプラ」を囲む未開発のエリア「ガアスペルパーク」である。2つの主要な高速道路に近く、アムステルダムの新しい地下鉄路線の終着駅に隣接しているという戦略的な立地条件から選ばれたこの場所は、1977年から1982年にかけてゼロから開発された。J.H.ファン・デル・メーレンの指揮のもと、ピーテル・ファン・ルーンとロン・コークが設計を担当し、風にさらされ、地下水位が高く、土壌の種類が多様なこの地域の地理的条件を考慮した。 ・湖畔には大木が植えられ、フロリアードがオープンするまでの数年間、成長の早い樹種を使った斬新な植栽技術が採用された。市街地の憩いの場として設計されたこの場所は、市街地から半自然地域、そして放牧地に野生の植物が生い茂る完全な自然地域へと、徐々に移行していくことが意図された。 ・高低差があり、風変わりな海岸線と曲がりくねった小道を持つこの公園は、ロマンチックな楽園として設計され、ベルソー、エスプラネード、バラ園などのフォーマルな要素が強調された。EXPO 1982 アムステルダムでは、伝統的なオランダの花々から、果物や野菜、低木、アジアやアフリカからの輸入品まで、様々な種類の花々が展示された。新技術としては、水に栄養分を加えて植物を育てる「ハイドロカルチャー」が目を引き、温室での栽培を管理するコンピューターシステムも紹介された。 ・7,000 m²の広さを誇るフラワーホールでは、期間中13の展示が行われたほか、バタフライハウスやロマンチックなローズガーデンなども人気を集めた。会場は歩いて回るだけでなく、フロリアード・トレインに乗ったり、馬車に乗って見学したりすることもできた。高さ65mの展望台からは会場全体を見渡すことができ、プラネタリウムや 		

	<p>子供用のプレイパークもあり、フロリアードの楽しみのひとつとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際庭園は、主に公園の東側、ガースプに沿った帯状の場所にあり、中国、日本、ベルギー、ロシア、イタリア、西ドイツの庭園があった。「夢追い人」と呼ばれる中国庭園では、ミニチュアの風景画が特に人気を集め、日本庭園ではアゼリアや盆栽などが展示されていた。イギリスのリバプールやマンチェスター、カナダのトロントなども独自の庭園を設けて参加した。屋外の庭園以外にも、フロリダのトロピカルな展示など、幾つかの国が屋内のホールで展示を行い、フロリアードに参加した。
<p>博覧会後の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・EXPO 1982 アムステルダム終了後、ガースパーパークはアムステルダムの新しい広々とした公共公園に生まれ変わり、フロリアードの遺産である都市の緑地化が進められました。この公園は、曲がりくねった小道、豊かな植物、夏には泳げるような風変わりな海岸線など、市民の憩いの場として親しまれている。 ・公園内にある EXPO のプラネタリウムは、後に会議場に転用された。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1982-amsterdam>)

図表6 既往事例調査(06)

名称	IGA EXPO 1983 MUNICH 1983 IGA・ミュンヘン(独) EXPO 1983 ミュンヘン		
会期	1983年4月28日～10月9日		
開催国	西ドイツ	開催地	ミュンヘン ウェストパーク
入場者数	約1160万人		
規模	面積 72 ha		
テーマ	International Horticulture 国際園芸		
概要	<ul style="list-style-type: none"> 1983 IGA・ミュンヘン(独) (以下、「EXPO 1983 ミュンヘン」という。)は、1980年6月12日の総会で承認されたBIE認定のドイツで3番目の園芸博覧会である。4月28日にカール・カルシュテンス連邦大統領によって開会された博覧会には、1日平均25万人、半年間で1,100万人の来場者があった。博覧会の会場は、市の西部にある3.5 kmに及ぶ無計画に開発された平原に沿って建設され、「ウェストパーク」と呼ばれた。 ランドスケープアーキテクトのピーター・クルスカ氏は、これまで緑地が少なかった都市部の繁華街に、心身の休養に適した公園を構想することを任された。その結果、中央部にはライムやニレ、境界部にはオークやブナなど、主に在来種の樹木が植えられた自然豊かな公園が誕生した。高速道路の西側と東側に分かれた万博会場は、高低差のある谷間の風景をイメージした。 会場は、一つの大きな庭園のように構成された。45のテーマガーデンと23のナショナルガーデンがあり、合計171の展示が行われた。特に後者では、世界各国の園芸の伝統を知ることができた。特に地中海とアジアのセクションは、サルデーニャの庭園、日本の桜、タイのカラフルなサラなど、来場者の人気を集めた。EXPOのポスターをデザインしたフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサーの建築模型「Hoch Wiesen Haus」をはじめとするアート作品は会場内に展示された。 		
博覧会後の取扱	<ul style="list-style-type: none"> EXPO 1983 ミュンヘン終了後のウェストパークは、ミュンヘン市の憩いの場として整備され、アジア庭園やホーチ・ヴィーゼンハウス、多年草など、万博当時の面影を残す人気のスポットとなっている。 		

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1983-munich>)

図表 7 既往事例調査 (07)

名称	EXPO 1984 LIVERPOOL 1984 リバプール国際庭園博覧会(英) EXPO 1984 リバプール		
期	1984年5月2日～10月14日		
開催国	英国	開催地	英国 リバプール
入場者数	約 338 万人		
規模	面積 95ha		
テーマ	The progress accomplished by International and National Horticulture 国際的及び国内的に園芸が達成した進歩		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1984 リバプール国際庭園博覧会(以下、「EXPO 1984 リバプール」という。)は、英国で初めて開催された園芸博覧会で、5月2日にエリザベス2世によって開会され、10月14日まで開催された。1982年6月24日のBIE第91回総会で正式に承認されたこの博覧会は、リバプール市とその観光産業の活性化を目的とした。旧南ドック地区に位置する会場の多くは、EXPO開催前には廃墟と化していたが、EXPO 1984 リバプール開催に向けて大規模な改修工事が行われた。 ・ビートルズにちなんでリンゴの形をした95haの敷地は、大きく4つのエリアに分かれていた。 ・第1のゾーンである常設エリアでは、屋内展示が行われるフェスティバルホールを始め、会期中15の多彩な園芸ショーが開催された。このエリアには、水辺やマリン・エスプラネード、リバプールにゆかりのある様々なスターをたたえる「Pathway of Honour」などがあった。 ・第2のゾーンである英国のテーマエリアでは、イギリスの優れた園芸品を紹介された。 ・第3のゾーンである国際テーマエリアでは、世界各国の園芸が展示された。29か国が参加し、そのうち18か国が自国の屋外庭園を紹介し、それぞれの園芸の伝統と文化を紹介した。ほとんどの参加国がナショナルウィークを開催し、来場者に好評を博した。 ・第4のゾーンでは、ホーム&ガーデン特集で、多くのショーハウスが庭と一緒に展示されていた。60の個別の庭園だけでなく、膨大な数のアート作品も展示された。制御室を再現した全長15mのイエローサブマリン、ジョン・レノンの銅像、アラン・エアーズのキッシングゲートなどが目を引いた。 ・来場者の動線を改善するために、会場内の各駅を結ぶミニ・トレインが設置され、都市部への支線につながるジャンクションが形成された。また、大規模な投資として 		

	客車を導入し、会場へのアクセスを容易にした。
博覧会後の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地の一部は住宅地として開発され、残りの部分は数年間、娯楽・レジャー施設として利用された。残った部分は数年間、エンターテインメントやレジャーの会場として使われた。 ・2009年、「Festival Gardens」として知られていたこの場所が再開発されることが発表された。この再開発では、中国庭園、日本庭園、湖、パゴダ、森の彫刻の小道が復元された。2012年には、これらの修復とさまざまな新しい要素が完成し、以来、リバプールの人々に親しまれている。 ・リバプール・ジョン・レノン空港には、2005年から「イエロー・サブマリン」が設置されている。これは、現在でも市内で見ることができる EXPO のアート作品のひとつである。
政府出展	
内容	・第2のゾーンである国別テーマエリアでは、イギリスの優れた園芸品を紹介した。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1984-liverpool>)

図表8 既往事例調査(08)

名称	FLORIADE EXPO 1992 ZOETERMEER 1992 フロリアード・ハーグ・ズータメア(蘭) EXPO 1992 ズータメア		
会期	1992年4月10日～10月12日		
開催国	オランダ	開催地	ズータメア
入場者数	約336万人		
規模	面積 68ha		
テーマ	Horticulture is being involved in a continuous process of renewal in the field of quality, technique, science and management 園芸は、品質、技術、科学、経営の各分野で継続的に更新されている		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1992 フロリアード・ハーグ・ズータメア(以下、「EXPO 1992 ズータメア」という。)は、BIEが承認するフロリアードとしては4回目の開催である。ベアトリックス女王の下、4月10日から10月1日まで開催された。ズータメアはハーグから10 kmほど離れた発展途上の町で、1984年にオランダ園芸協会が選定し、1988年の第103回BIE総会で承認された。 ・ EXPO 1992 ズータメア会場として選ばれたのは、海拔5mのポルダー地帯で、以前は牧草地として使われていた。平地化と排水から始まり、「エデンの園」を目指して6年がかりで整備された。「がちょうの足」と呼ばれる三角形の敷地に、1,200 mの「花の軸」、3.6 mの「堤防の軸」、そして「フローラの池」と「がちょうの足の池」を結ぶ「水の軸」という3つの軸を扇状に配置した。 ・ 敷地の中央には高さ76 mのタワーがあり、来場者にパノラマビューを提供した。また、キャタピラー・モノレールとハーグからのヴァンテージ・トラムにより、庭園内やフラワーランナーに沿って簡単にアクセスすることができた。 ・ EXPO 1992 ズータメア会場の展示内容は、「貿易・輸送・流通」、「生産・エネルギー」、「消費者」、「環境」、「未来・科学」、「世界」及び「レクリエーション」の7つのテーマに分かれた。その中でも最も大きなパビリオンである「Exposarium」は、最初のエリアに位置し、8,000㎡の常設と仮設の展示スペースでオランダと世界の花々を紹介した。 ・ EXPO 1992 ズータメアでは、環境問題が特に重要視された。このパビリオンは、リサイクルされたスチールとコンクリートで作られたオープンウォールの円形構造で、地球上の限られた資源と、きれいな空気と水の重要性に注目している。インタラクティブな展示や映画館もあり、大人から子供まで幅広い層に人気があった。 		

	<ul style="list-style-type: none"> • 新しい技術にも注目が集まった。果物と野菜のパビリオンでは、栄養分を処理した水を植物に送り、余った水をリサイクルする最新のコンピュータ技術が紹介された。自然の捕食者を利用して昆虫をコントロールし、環境へのダメージを軽減する技術も紹介された。 • EXPO 1992 ズータメアに23か国が参加し、そのうち13か国が屋外庭園を造った。海外からの参加者は、音楽やダンスのパフォーマンスを行い、EXPO 1992 ズータメア期間中にナショナルデーを開催するなど、文化プログラムにも大きく貢献した。来場者の体験としては、黙想の庭、香りの庭、子供のための一連のプレイパークなどが用意された。フロリアードのために特別にデザインされた「アロカシオン」と呼ばれる一連のアート作品は、23人のビジュアルアーティストのオリジナル作品である。その中のひとつ、ロブ・ショルテがデザインした6mの頭の形をした植木鉢は、「ゾーテルメールの巨像」と呼ばれ、フロリアードのシンボルとなった。
<p>博覧会後の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 開発可能なエリアとなった EXPO 1992 ズータメア会場の北側は新たな住宅地となり、南側と西側は緑地として維持され、フロリダパークとなった。イギリス、バングラデシュ、ベルギー、ハンガリーの国立庭園は、ハーレンの植物園に移され、現在に至っている。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1992-zoetermeer>)

図表9 既往事例調査(09)

名称	IGA EXPO 1993 STUTTGART 1993 IGA・シュトゥットガルト(独) EXPO 1993 シュトゥットガルト		
会期	1993年4月23日～10月17日		
開催国	ドイツ	開催地	シュトゥットガルト
入場人数	約730万人		
規模	面積 64ha		
テーマ	City and Nature - Responsible Approach 都市と自然-責任あるアプローチ		
概要	<ul style="list-style-type: none"> •1993 IGA・シュトゥットガルト(以下、「EXPO 1993 シュトゥットガルト」という。)は、ドイツで開催された、BIE承認の4回目の園芸博覧会である。1993年4月23日にリヒャルト・フォン・ワイツゼッカー連邦大統領によって開催され、半年間の開催期間中に730万人の来場者を記録した。 •EXPO 1993 シュトゥットガルト会場は市街地の北東に近い場所にあり、その開発は、シュトゥットガルトの既存の公園の幾つかを連続したベルト状につなぐ「Green-U」プロジェクトの中核をなすものであった。そのエリアは、キレスバーク公園、ヴァルトバーク、ライブフリードシェ庭園、ローゼンシュタイン公園など、シュトゥットガルトの谷間となっている盆地の北端をカバーした。 •この計画は、万博のテーマである「都市と自然-責任あるアプローチ」に合致するものであり、地形や特徴の異なる既存の公園を網羅しているため、来場者は多くの庭園のバリエーションを楽しむことができ、それらは円形のパノラマ・トレインで結ばれていた。このテーマに沿って、EXPOの庭園や展示物は、異なる環境下での人間と植物の相互依存関係を表現した。 •EXPO 1993 シュトゥットガルトの屋内フラワーショーは、シュトゥットガルト・メッセとコングレスゲゼルシャフトで開催され、総展示面積は105,000 m²に及んだ。盆栽、ハイドロカルチャー、バルコニーやテラス用の花など、テーマ別、品種別に分けられたこれらのショーには、643以上の出展者が参加した。 •「Green University」では、特定のテーマに沿ったツアーやデモンストレーションが定期的に行われた。500 m²の広さを誇る Württemberg Gardening Associationの温室では、最新の栽培方法が紹介されているほか、温室を囲む屋外エリアでは、野菜作りのデモンストレーションが行われた。このエリアには、EXPO 1993 シュトゥットガルトのマスコットであり、最も人気のある写真撮影スポットでもある、春と夏の花で作られた6mの花のフクロウの彫刻「Flori」が設置された。 		

	<ul style="list-style-type: none"> •ローゼンシュタイン公園では、22か国がそれぞれの国の庭園を展示した。伝統的なものから近代的なものまで様々なスタイルがあり、公園と他の会場をつなぐ、170 mの木製の吊橋から各国の庭園を眺めることができた。オランダの庭園では、輸送用コンテナからこぼれ落ちるチューリップの海、古代エジプトをイメージした、ヤシの木の庭園、インドの幾何学的な庭園、ゴージャスが住んでいた場所を再現したウクライナのカントリーハウスなど、見どころ満載であった。 •EXPO 1993 シュトゥットガルトでは、参加国が主催するナショナルウィークのイベントなど、活発な文化プログラムが行われた。8月18日に行われた中国の花火大会には、30万人の来場者が集まり、万博最大の盛り上がりを見せた。 •EXPO 1993 シュトゥットガルト は、シュトゥットガルトの「Green-U」プロジェクトを完成させ、ヨーロッパで最も環境に優しい都市のひとつになることに貢献した。
<p>博覧会後の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> •EXPO 1993 シュトゥットガルト終了後、ローゼンシュタイン公園を元の状態に戻すため、各国の庭園は解体されたが、イランやウクライナの庭園など、人気の高い展示物はシュトゥットガルトの別の場所に移された。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/1993-stuttgart>)

図表 10 既往事例調査(10)

名称	EXPO 1999 KUNMING 1999 昆明世界園芸博覧会(中国) EXPO 1999 昆明		
会期	1999年5月1日～10月30日		
開催国	中国	開催地	昆明
入場者数	943万人(70の国と26の国際機関)		
規模	面積 218ha		
テーマ	Man and Nature - Marching into 21st century 人間と自然 - 21世紀への行進		
実施主体	雲南省園芸博覧局		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・1999 昆明世界園芸博覧会(以下、「EXPO 1999 昆明」という。)は、「人間と自然- 21世紀への行進」をテーマに、中国の昆明で開催された。1994年12月7日のBIE総会で承認されたこの博覧会は、当初は北京で開催される予定だったが、1995年に中国政府の意向により、農業と園芸分野で急速に発展している雲南省の省都、昆明に開催地が変更された。会場となった218haの敷地は、昆明の中心部から北東に7km離れたハイゲンに位置し、近くには歴史的に道教の聖地である金閣寺があった。 ・EXPO 1999 昆明では、1999年5月1日に江沢民国家主席が出席して盛大な開会式が行われ、「地上の楽園(The Romance of Heaven on Earth)」と題されたライブの祝賀演奏会を経て、一般公開された。中国で初めて開催されたBIE承認の国際博覧会として、EXPO 1999 昆明は国内外のメディアの注目を集め、鼻のついた猿のマスコット「リンリン」や週刊のバイリンガルの EXPO 新聞「花園報」なども登場した。会場内の移動には約600台の電気バスが用意された。 ・屋外庭園は、3つのメインエリア(中国、国際、企業)と、来場者に人気の高い6つのテーマガーデン(竹の庭、茶の庭、盆栽の庭、森の庭、薬草の庭、果物と野菜の庭)に分かれた。 ・19,927㎡の広さを誇る屋内展示場「中国ホール」では、中国の各省・地域・都市のガーデニングや園芸の特産品、国内の企業が展示されていた。また、光透過性と断熱性に優れたパネルを使用した「大温室」では、熱帯・温帯・寒帯の植物1,200種以上が展示された。「人と自然のホール」では、万博のテーマに沿って、環境問題に取り組み、協調的な発展のために必要な成果と解決策を展示した。 ・EXPO 1999 昆明には、70の国と26の国際機関が参加し、そのうち34の国が独自の屋外庭園を設計した。国慶節に加えて、多くの参加国、例えばフランスのワインフェスティバル、日本の民俗劇、スコットランドのパイプバンドショーなどの文化活動を行った。 		

博覧会後の取扱い	・EXPO 終了後、会場は「世界園芸博覧会庭園」として公園化され、現在も昆明の観光名所として人気の高いレクリエーションエリアとなっている。	
政府出展		
内容	概要	・19,927 m ² の広さを誇る屋内展示場「中国ホール」では、中国の各省・地域・都市のガーデニングや園芸の特産品、国内の企業が展示されている。また、光透過性と断熱性に優れたパネルを使用した「大温室」では、熱帯・温帯・寒帯の植物 1,200 種以上が展示されていた。「人と自然のホール」では、万博のテーマに沿って、環境問題に取り組み、協調的な発展のために必要な成果と解決策を展示した。
	テーマ	詳細不明
規模	面積 19,927 m ²	
実施主体	中国政府、行政府・市、企業	
意思決定機関	組織委員会	

【政府出展の分析・評価】

- ・EXPO 1999 昆明は中国政府が初めて主催するもので、中国の国際的イメージアップとともに、雲南現地の経済発展と社会進歩にもつながった。
- ・環境保全の意識を喚起すると同時に園芸技術の交流を深めた。

出所: BIE 公式 HP (<https://www.bie-paris.org/site/en/1999-kunming>)

出所: 昆明博覧会について (<http://j.people.com.cn/special/99sbh/kunhuijieshao.htm>)

図表 1 1 既往事例調査(11)

名称	FLORIADE EXPO 2002 HAARLEMMERMEER 2002 フロリアード・ハールレマミーア(蘭) EXPO 2002 ハールレマミーア		
会期	2002年4月25日～10月20日		
開催国	オランダ	開催地	ハールレマミーア
入場者数	約 207 万人		
規模	面積 65ha		
テーマ	Feel the Art of Nature 自然の芸術を感じよう		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2002 フロリアード・ハールレマミーア(以下、「EXPO 2002 ハールレマミーア」という。)は、BIEの承認によりオランダで開催された5回目の園芸博覧会である。1997年6月12日にBIE総会で承認され、2002年4月25日にベアトリックス女王によって一般公開された。この博覧会の主催者は、「自然の芸術を感じよう(Feel the Art of Nature)」をモットーに、自然を楽しむことに加えて、持続可能で環境にやさしい生活を送ることの重要性を訴えた。 ・アムステルダム首都圏のスキポール空港に隣接するポルダーに位置するNiek Roozen設計のEXPO 2002 ハールレマミーア会場には、森林地帯であるハールレマミーア・ボスト、40mのピラミッドである「スポッターズ・ヒル」を囲む10の島が接続されていた。環境に配慮したテーマに沿って、樹齢100年のプラタナスをはじめとする既存の樹木や植物を統合し、既存の景観を生かした開発が行われた。 ・スポッターズ・ヒルを中心とした「バイ・ザ・ヒル」では、未来の暮らしをテーマに、「グリーン・シティ」や、持続可能な自然環境の促進をテーマにしたオランダの展示物を幅広く紹介した。もうひとつのメインセクションである「オン・ザ・レイク」では、うっそうとした森林や曲がりくねった小道、湖畔や水上にあるインターナショナル・ガーデンなど、自然をテーマにした展示が行われた。ヨーロッパの庭園、エキゾチックなアジアの庭園、タイのパビリオンに加えて、世界最大のスイレンのコレクションや「花の谷」の「100万本の花」などが紹介された。 ・当時、世界最大規模であった1万9,000枚のソーラーパネルが設置されたソーラーラーフにより、敷地全体の電力が賄われた。ソーラーラーフの下には、30種類の亜熱帯植物が植えられており、近くにある「未来の温室」では、自動回転するベッドで光を最大限に取り入れ、果物や野菜の栽培時間を短縮するなど、植物栽培の最新技術が紹介された。 ・園芸関連の展示だけでなく、変化に富んだ建築物も来場者の大きな関心事となっていた。ハールレマミーア・パビリオンは「Hydra Pier」と呼ばれ、海面下に位置する 		

	<p>地域の陸域と水域の境界に着目している。ハニ・ラシッドのデザインによるこのパビリオンは、ポルダーから突き出たような形をしており、傾斜した屋根からガラスの壁に向かって連続的に水が流れているのが特徴であった。「Layered City」は、現代の建築物が既存の景観にどのように統合されるかを示す革新的な作品であった。</p>
<p>博覧会後の取扱い</p>	<p>・EXPO 終了後の敷地は、「De Groene Weelde」と呼ばれる大規模なレクリエーションエリアに生まれ変わった。2003 年から毎年夏には、オランダの人気音楽フェスティバル「Mystery land」が開催されている。ソーラールーフの下のエリアには、2017 年に大規模な拡張工事が行われた大規模な展示センター「EXPO ハールレマミア」が完成した。</p>

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2002-haarlemmermeer>)

図表 1 2 既往事例調査(12)

名称	IGA EXPO 2003 ROSTOCK 2003 IGA・ロストック(独) EXPO 2003 ロストック		
会期	2003年4月25日～10月12日		
開催国	ドイツ	開催地	ロストック
入場者数	約260万人		
規模	面積 100ha		
テーマ	A Seaside Park - A NEW Flowered World 海辺の公園 - 新しい花の世界		
モットー	“Mensch - Nature - Wasser” (Mankind - Nature - Water) 人間-自然-水		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2003 IGA・ロストック(以下、「EXPO 2003 ロストック」という。)は、1997年6月12日の総会で承認されたBIE承認のドイツで5回目の園芸博覧会である。EXPO 2003 ロストックのテーマは、2000年のハノーバーEXPO にならって「Mensch - Natur - Wasser」(人間-自然-水)とし、人間と環境との関係の重要性と、バルト海に面したワーノフ川の河口に位置するロストックの立地を強調した。EXPO 2003 ロストックは、川岸の未開発の土地に建設され、「海辺の緑の EXPO」と呼ばれた。 ・EXPO 2003 ロストックの主催者は、既存の川の流れを利用し、既存の植物の保護区域を指定し、EXPO 2003 ロストックの敷地内にできるだけ多くの自然の要素を取り入れた。EXPO 2003 ロストックの水の要素は、多くの水空間(IGA on the Water)、河岸の改造(IGA on the River)、岸辺のポンツーンに固定された3つのフローティングガーデン(IGA in the River)によって強調された。会場で最も目を引くのは、23か国の参加者の庭園を集めた「ナショナル・ガーデン」であった。中東のヤシの木、中国の竹のパビリオン、ギリシャのエーゲ海の庭園、オーストリアの「女性の庭」など、世界各国の独創的でエキゾチックな園芸のアプローチを見ることができた。 ・EXPO 2003 ロストックの遺産は、EXPO 準備のために重要な役割を果たした、大規模なインフラの整備だった。EXPO 開催までの数年間に5億ユーロ以上の投資が行われ、Warnow の下を通るトンネルや高速道路のジャンクションなどが建設された。 		
博覧会後の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・EXPO 2003 ロストック終了後、会場はロストックの新しい公園・レクリエーションエリアとなった。IGA-Park Rostock」と名付けられたこの公園には、12のナショナル・ガーデンが残り、アシ、ウミウチワ、ヤナギなどの自然の植物も多く残されている。 		

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2003-rostock>)

図表 1 3 既往事例調査(13)

名称	EXPO 2006 CHIANG MAI 2006 チェンマイ国際園芸博覧会(タイ) EXPO 2006 チェンマイ ロイヤル・フローラ・ラーチャプルック 2006(公式名称)		
会期	2006年11月1日～2007年1月31日		
開催国	タイ	開催地	チェンマイ
入場者数	385万人		
規模	面積	80 ha	
	予算	2,795 百万バーツ(83 億 9 千万円)	
テーマ	To Express the Love for Humanity 人類への愛を表現するために		
実施主体	農業協同組合省農業局		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイの人々が国王陛下に敬意を払う 来場者数は 380 万人で、目標としていた 200 万人を 90%も上回った。これは、このイベントが成功したことを示しており、タイの人々や外国人が国王陛下を愛し、尊敬していることを反映した。 ・ 良好な国際関係 2006 チェンマイ国際園芸博覧会(以下、「EXPO 2006 チェンマイ」という。)では、30 か国が参加し、「人類への愛を表現する」というテーマのもと、「国王のための庭園」を作り、自国の植物や地元の材料を持ち込んで、それぞれの建築様式や庭園様式を表現し、タイ政府やタイ国民に提供した。また、多くの国が文化団や国慶節の活動を博覧会で披露した。 ・ 世界的な博覧会をタイで開催できることをアピール EXPO 2006 チェンマイの成功は、タイがこのようなイベントを開催する準備と能力があることを証明した。タイが A1 博覧会を開催するのは初めてのことであったが、結果はすべてにおいて高い成功を収めた。海外からの参加者は、A1 博覧会の目標を 10 か国上回る 30 か国からの参加があり、高い評価を得た。開催地の選定、建築のすばらしさ、会期中に丁寧に手入れされた草花の美しさと種類の多さ、技術情報の多さなど、すべてが成功につながった。 ・ 園芸に関する技術や情報を広く国際的に交換することができる EXPO 2006 チェンマイで開催された国際フォーラムとワークショップには、国内外から 3,000 人以上の参加者があった。海外からの参加者は、オーストラリア、ブラジル、中国、チェコ共和国、ドイツ、インド、イラン、イタリア、日本、マレーシア、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、サウジアラビア、シンガポール、スーダン、イギリス、アメリカの計 515 名であった。このフォーラムは、世界の園芸分野の専門 		

	家や研究者が集い、議論し、新発見や新研究の情報を交換する、重要な世界的情報交換の場となった。	
博覧会後の取扱い	園芸知識センターは、万博をきっかけに開発され、現在では世界中の園芸家の技術・知識交流の拠点となった。	
政府出展		
内容	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ロイヤル・パビリオンは、建築上のハイライトであり、ショーの中心であり、国王陛下がすべてのタイ国民の中心であり続けることを象徴するように、目立つように配置され、来場者を魅了した。 ・ 丘の上に建てられたロイヤル・パビリオンは、3,000 m²の敷地に伝統的なランナー建築の栄光を誇らしげに表現している。
	テーマ	タイ国民が国王陛下に敬意を払う
規模	面積 3,000 m ²	
実施主体	農業協同組合省農業局	

【政府出展の分析・評価】

- ・ロイヤル・パビリオンは、建築上のハイライトであり、ショーの中心であり、国王陛下がすべてのタイ国民の中心であり続けることを象徴するように、目立つように配置された。
- ・タイの人々が国王陛下に敬意を払うため「国王のための公園」は造成された。

出所:ロイヤル・フローラ・ラーチャブルック 2006 公式記録

(<https://aiph.org/wp-content/uploads/pdfs/Final-report-Thailand-Chiang-Mei-Royal-Flora-Ratchaphruek-2006.pdf>)

出所:BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2006-chiang-mai>)

図表 1 4 既往事例調査(14)

名称	FLORIADE EXPO 2012 VENLO 2012 フロリアード・フェンロー(蘭) EXPO 2012 フェンロー		
会期	2012年4月5日～10月7日		
開催国	オランダ	開催地	フェンロー
入場者数	約 205 万人		
規模	面積 66ha		
テーマ	Be part of the theatre in nature; get closer to the quality of life 自然の劇場の一部となり、生活の質に近づく		
モットー	Cradle to Cradle 「ゆりかご」から「ゆりかご」まで		
サブテーマ	<ul style="list-style-type: none"> • Relax & Heal • Green Engine • Education & Innovation • Environment • World Show Stage • ウェルビーイング • 経済と持続可能性 • イノベーション • 生活の質 • 異文化との出会い 		
実施主体	詳細不明		
概要	<p>• 2012 フロリアード・フェンロー(以下、「EXPO 2012 フェンロー」という。)は、2008年12月2日の第144回総会で承認された、BIE承認のオランダで6回目のフロリアード(国際園芸博覧会)であった。2012年4月4日にベアトリックス女王によって開会されたフロリアードは、6か月の開催期間中に200万人以上の来場者を迎え、そのうち52%がオランダ国外からの来場者であった。</p> <p>• 「自然の劇場の一部となり、生活の質に近づく(Be part of the theater of nature; get close to the quality of life)」というテーマのもとに開催されたこの EXPO 2012 フェンローは、「見せる」というよりも「刺激を与える」イベントとして企画された。オランダ園芸協会は、来場者の体験が持続的に良い思い出となることを目指し、「ゆりかごからゆりかごまで」という持続可能性の原則を採用した。ドイツの化学者 Michael Braungart 氏とアメリカの建築家 William McDonough 氏の協力を得て開発された、この革新的な原則は、原材料のリサイクルに焦点を当てた循環型の</p>		

	<p>持続可能性に基づいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXPO 2012 フェンロー会場は、こうした持続可能性の原則に沿って開発されており、主催者は自然の地形を最大限に利用し、25 ha の既存の森林を保全した。会場を見下ろす場所には、Jo Coenen 氏が設計した高さ 70m の会議場「Innovatoren」があり、「ゆりかごからゆりかごまで」というコンセプトで作られている。このコンセプトを採用した EXPO のもう一つの重要な建物は、Jon Kristinsson が設計したメインの屋内展示パビリオン「Villa Flora」であった。【Cradle to Cradle は、直訳すると「ゆりかごからゆりかごへ」という意味。「Cradle to Grave(ゆりかごから墓場まで)」という、イギリスにおける社会福祉政策のスローガンをもじって作られた言葉で、地球というゆりかごから得た資源をごみとして墓場(=廃棄場)に捨てるのではなく、ごみを資源と捉え、ゆりかご(=地球)に戻し、完全に循環するかたちにしよう」とする考え方。】 • 66 ha の敷地は、5 つのサブテーマを反映した 5 つのメインエリアに分かれた。 <ul style="list-style-type: none"> - リラックス&ヒーリング ウェルビーイング - グリーン・エンジン 経済と持続可能性 - 教育と革新 イノベーション - 環境 生活の質 - 世界のショーステージ 文化との出会い <p>敷地の中央にはケーブルカーが走り、アクセスを容易にするとともに、様々な庭園や森の景色を堪能することができた。</p> • 主要な展示である「My Green World」では 100 万人以上の来場者を記録した、大規模なオランダのナショナルパビリオンに加え、合計 38 の国際的な参加者が屋内展示や屋外の庭園を介してフロリアードに参加した。 • ピクニックコンサート、国際的な収穫祭、157 組のアーティストによる音楽ショー、週末の光のショー「フロリアード・バイ・ナイト」など、3,000 以上のパフォーマンスが行われ、来場者はフロリアードのにぎやかな文化シーンを楽しむことができた。 • 主催者は、EXPO 2012 フェンロー会場内に 10 個の独立した芸術作品の設置を依頼した。これらの作品はすべて、フロリアードのテーマを反映し、景観と調和するようにデザインされた。EXP の幅広い展示に加えて、フロリアードでは、2009 年から始まった「フロリアード・ダイアログ」というプログラムによって、テーマに沿った課題に取り組んだ。EXPO 2000 ハノーバーのグローバル・ダイアログ・イニシアチブに触発されたこのフォーラムは、科学、ビジネス、政府から国際的な専門家を集め、食料生産、建築・自然環境、持続可能な成長、生活の質など、主要なテーマの問題を議論した。 • EXPO 2012 フェンロー終了後、計画戦略に基づいて、敷地の 90%が、建物や施設を最大限に再利用したイノベーション複合施設「フェンロー・グリーンパーク」に
--	---

	生まれ変わった。特筆すべきは、農業と持続可能性の分野で働く起業家や研究者のために、ヴィラフローラ内にオフィススペースを提供している。
博覧会後の取扱い	・EXPO 2012 フェンロー終了後、計画戦略に基づいて、敷地の 90%が、建物や施設を最大限に再利用したイノベーション複合施設「フェンロー・グリーンパーク」に生まれ変わった。特筆すべきは、農業と持続可能性の分野で働く起業家や研究者のために、ヴィラフローラ内にオフィススペースを提供している。
政府出展	
内容	・100 万人以上の来場者を記録したナショナルパビリオンの「My Green World」

出生：BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2012-venlo>)

出所：2012 フロリアード・フェンロー（蘭）公式記録

(<https://aiph.org/wp-content/uploads/2020/11/Venlo-The-Netherlands-2012-A1-final-report.pdf>)

図表 1 5 既往事例調査(15)

名称	EXPO 2016 ANTALYA 2016 アンタルヤ国際園芸博覧会(トルコ) EXPO 2016 アンタルヤ		
会期	2016年4月23日～10月30日		
開催国	トルコ	開催地	アンタルヤ
入場者数	469万人		
規模	面積 112ha		
テーマ	Flowers and Children 花と子供たち		
モットー	A Green Life for Future Generations 未来の世代のための緑の暮らし		
サブテーマ	<ul style="list-style-type: none"> • History • Biodiversity • Sustainability • Green Cities • 歴史 • 生物多様性 • 持続可能性 • 緑の都市 		
実施主体	EXPO 2016 アンタルヤ庁 アンタルヤ市議会は諮問機関として機能した。		
概要	<ul style="list-style-type: none"> • 2016 アンタルヤ国際園芸博覧会(以下、「EXPO 2016 アンタルヤ」という。)では、花は、緑の未来の世代への遺産を象徴していた。緑の未来とは、生物多様性を維持し、自然と栽培の多様性のバランスを保つ能力にかかっている。そのため、メインテーマである「花と子供たち」は、国際的にも国内的にも強く支持された。 • EXPO 2016 アンタルヤは、地球温暖化、エコロジー農業、生物多様性の保全、グリーンシティ、持続可能性、食糧安全保障などの地球環境問題に取り組むための国際的なプラットフォームを提供しただけでなく、参加国にとっては、世界の様々な大陸から訪れる数百万の人々に、国際庭園を通じて自国をアピールする機会となった。 • 国際庭園は、中央アジア、北アフリカ、中東、ヨーロッパから3時間のフライトで15億人が訪れることができる都市、アンタルヤの恒久的なプロモーションの投資となった。展示会では、園芸・農業分野に関する重要な問題も取り上げられた。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二国間関係と国際協力において重要な役割を果たしていることを利点とし、EXPO 2016 アンタルヤは主なインフラ投資でアンタルヤと地域の発展に大きく貢献した。 ・ アンタルヤ宣言は、すべての参加者の貴重な貢献により、展示会の終わりに発表された。アンタルヤ宣言は、EXPO 2016 の成果を強調するだけでなく、世界の逆境や脅威にもかかわらず、トップレベルの環境問題を解決するための闘いを続けるという国際社会の決意を示すものである。 	
博覧会後の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ EXPO 2016 アンタルヤ終了後は、モザイク栽培の植物彫刻が展示されている EXPO サイト、トルコに寄贈された国際庭園、その他の施設は、レクリエーションエリアとして国内外の訪問者が引き続き利用できる。 	
政府出展		
内容	概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 26,000 本以上の樹木と公園全体を覆う巨大な花模様を持つ EXPO 湖周辺の公園、公園内に広がる 4 つのコレクション・ガーデン(水生植物、地生植物、薬用・芳香植物、サボテン・ガーデン)、2 つのトルコ・ガーデンとオスマン・ガーデンで構成されるテーマ・ガーデン、そして最後にランドスケープ・パークのハイライトであるモザイク植物彫刻。 ・ キッズサイエンス&テクノロジーセンター、農業と生物多様性博物館、トルコの生物多様性テーマトレイル、EXPO 温室、コンGRESセンターでの展示。
	テーマ	インスピレーション、教育、エンターテインメント
実施主体	EXPO 2016 アンタルヤ庁	
意思決定機関	EXPO 2016 アンタルヤ理事会	

【政府出展の分析・評価】

- ・地球温暖化、エコロジー農業、生物多様性の保全、グリーンシティ、持続可能性、食糧安全保障などの地球環境問題に取り組むための国際的なプラットフォームを提供した。
- ・EXPO 2016 アンタルヤ終了時の発表された「アンタルヤ宣言」で世界の逆境や脅威にもかかわらず、トップレベルの環境問題を解決するための闘いを続けるという国際社会の決意を示した。

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2016-antalya>)

出所: Expo 2016 Antalya 公式記録

(<https://aiph.org/wp-content/uploads/pdfs/Final-Report-Expo-2016-Antalya.pdf>)

図表 1 6 既往事例調査(16)

名称	EXPO 2019 BEIJING 2019 北京国際園芸博覧会(中国) EXPO 2019 北京		
会期	2019年4月29日～10月7日		
開催国	中国	開催地	北京市 延慶区
入場者数	934万人		
規模	面積	503 ha	
	予算	16億6990万元(295億5723万円) (2021年11月26日為替レート17.7円/元)	
	収入	23億9292万5700元(423億5523万2700円) (2021年11月26日為替レート17.7円/元)	
テーマ	<p>Live Green, Live Better グリーンなライフスタイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Live Green, Live Better は、人類の長い歴史の中で新たな指針となった「エコロジー文明」の概念に由来した。古来、人々の生活は自然や園芸と切り離すことはできない。 ・園芸は、人間が自然と対話するための言語であり、植物生産の芸術であり、緑の文化であり、生命の延長であり本質である。人間と自然とのコミュニケーションの接点である園芸は、グリーンライフと生活の質との密接な関係を示すものでもあり、人々に物質的な豊かさと精神的な充足感をもたらしている。EXPO 2019 北京は、「Live Green, Live Better」をテーマに、グリーンなライフスタイルを求める人々の共通の願いと、人類が単に自然を認識して変えようとするのではなく、自然に適応し、自然を尊重し、自然に溶け込むことを目的とした。 		
実施主体	<p>組織委員会 実行委員会 北京国際園芸博覧会事務局(BIHECB)</p>		
概要	<p>・2019 北京国際園芸博覧会(以下、「EXPO 2019 北京」という。)は、2012年に国際園芸家協会(AIPH)によって認定され、2014年にBIEによって承認されたA1カテゴリーの国際園芸博覧会である。中華人民共和国が主催し、北京市政府が運営した。Live Green, Live Better」をテーマに開催されたEXPO 2019 北京は、環境に配慮したライフスタイルを求める人々の、共通の願いと、人類が自然に適応し、敬意を払い、自然に溶け込むことを支援することを目的とした。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> EXPO 2019 北京の会場は北京市延慶区の貴翠川沿いに位置し、面積は合計で約503haに及び、園芸博覧会としては最大規模となった。110の国と国際機関を集め、2019年4月29日から10月7日まで開催され、934万人の来場者を迎えた。 EXPO会場は、メインパビリオン、国際庭園、中国庭園、専門庭園、マスターデザイナー庭園で構成された。メインパビリオンには、永寧館、中国館、国際館、植物館、園芸体験館、桂離宮などであった。主なパビリオンには、永寧館、中国館、植物館、園芸体験館、桂離宮などがあり、国際館には41の屋外国際庭園と18の国際パビリオンブースがあり、中国の地方庭園も34あった。専門的な庭園としては、フルーツガーデン、ハーブガーデン、ベジタブルガーデンなどがあった。マスター・デザイナー・ガーデンでは、アメリカ、イギリス、デンマーク、オランダ、日本のデザイナーが手がけた5つのガーデンが紹介された。 	
博覧会後の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 冬季オリンピックの開催を支援した。 ゾーン内の関連会場を利用して、観戦、文化活動、選手交流、会議の宿泊やサービスをサポートした。 	
政府出展		
内容	概要	<ul style="list-style-type: none"> 永宇パビリオンを中心とする中国園芸展示エリア ビッグデータ分析、AI技術、5G通信技術等の最新の科学技術による生産管理と種苗管理 中国での園芸技術発展の歴史 ハイテクを活用した園芸技術
	テーマ	グリーンライフ、美しきふるさと
規模	面積 中国関連庭園 88,360 m ²	
出展形式	中国の原風景、希少植物	
実施主体	組織委員会 実行委員会 北京国際園芸博覧会事務局 (BIHECB)	
博覧会後の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> 中国館は生態文明の国家博物館として再計画・再配置された。展示ゾーンは全体的に保存し、一部を改築して、万博の生態教育の重要な展示エリアを形成した。 	
意思決定機関	組織委員会	

【政府出展の分析・評価】

グリーンなライフスタイルを求める人々の共通の願いと、人類が単に自然を認識して変えようとするのではなく、自然に適応し、自然を尊重し、自然に溶け込むことを強調した。

出所: AIPH 公式 HP(<https://aiph.org/wp-content/uploads/2021/10/200722-Final-Report-Expo->

2019-Beijing-for-ALPH.pdf

出所: BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2019-beijing>)

図表 1 7 既往事例調査(17)

名称	FLORIADE EXPO 2022 AMSTERDAM - ALMERE 2022 フロリアード・アルメーレ(蘭) EXPO 2022 アルメーレ		
会期	2022年04月14日～2022年10月09日		
開催国	オランダ	開催地	アルメーレ
入場者数	約200万人(予想)		
規模	面積 50ha		
テーマ	Growing Green Cities 成長する緑の都市		
サブテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ Green the city ・ Feeding the city ・ Healthying the city ・ Energising the city ・ 都市の緑化 ・ 都市への食糧供給 ・ 都市の健全化 ・ 都市の活性化 		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022 フロリアード・アルメーレ(以下、「EXPO 2022 アルメーレ」という。)は、2015年9月1日に国際園芸家協会(AIPH)に認定され、2017年11月15日に博覧会国際事務局(BIE)に承認された国際園芸博覧会である。この博覧会は、都市をより楽しく、より住みやすく、より持続可能なものにするクリエイティブでグリーンなソリューションの舞台を提供する。 ・ EXPO 2022 アルメーレでは、世界中から40以上の国がそれぞれのグリーンシティのビジョンを披露する刺激的な展示を行う。海外からの展示に加えて、オランダ国内の園芸を中心とする展示も行われる。大規模な温室群、美しい庭園、持続可能な素材を使った、驚くべきデザインの建物などが展示される。これらの建物の幾つかは、EXPO 2022 アルメーレ終了後の未来都市の一部になる。これらの展示は、EXPO 2022 アルメーレ全体を覆う樹木園というユニークな場所に設置される。会場にはケーブルカーが敷設されており、緑の都市のための持続可能な交通手段であるケーブルカーに親しむことができる。 ・ EXPO 2022 アルメーレは、刺激的なプログラムとイベントやフェスティバルの華やかなラインナップにより、活気に満ちたダイナミックな場所となる。毎日、何か新しい発見や体験がある。ワークショップ、ポップアップ、アートインスタレーション、ミート&グリート、カルチャーイベント、エンターテインメントなど、すべてが EXPO 2022 の成 		

	<p>功に貢献する。</p> <ul style="list-style-type: none"> •グローイング・グリーン・シティ <p>EXPO 2022 アルメーレの全体テーマは「Growing Green Cities」である。地球上には 70 億の人口がいる。そのうち 50%以上が都市に住んでいる。2050 年にはこの割合が 70%近くになると言われている。絶え間なく続く都市化の中で、都市を安全で健康かつ魅力を保つ方法を模索し、「グローイング」と「グリーン」のより良いバランスを見つける以外に選択肢はない。このような観点から、4 つのサブテーマが設定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> •都市の緑化 <ul style="list-style-type: none"> - 都市をより魅力的にする、公園や緑の造成。 •都市の食糧供給 <ul style="list-style-type: none"> - 食料生産、安全性、フードセキュリティのソリューション。 •都市の健康化 <ul style="list-style-type: none"> - 緑の構造物が健康的な生活環境に寄与し、緑地が都市住民の肉体的・精神的な活力となる。 •都市の活性化 <ul style="list-style-type: none"> - 持続可能なエネルギーソリューションと、活力ある都市に向けた緑地の提供。 •都会でのエコな生活、持続的に栽培された食品、クリーンなエネルギー、健康的な生活環境。これらのテーマに関心を持ち、日々の生活の中で実践しようとする人が増えている。これらのテーマには、まだまだ知られていない選択肢や機会がある。EXPO 2022 アルメーレは、創造的な未来を提示する。国内外を問わず、大局的な見地から物事を考える人たち、革新者や知的なタイプの人たちに、都市をより住みやすく、持続可能なものにするためのグリーンなソリューションの舞台を提供する。 •EXPO 2022 アルメーレには、敷地全体を覆う樹木園がある。これは、植物、作物、花の球根で豊かになった樹木のカatalogで、アルファベット順に並べられている。それぞれのアイテムには、グリーンシティの文脈で実証できる機能がある。例えば、都市の温度を下げるもの、水を蓄えるもの、空気をきれいにするもの、エネルギーを生み出すものなどがある。1 区画の正面積は 920 m²で、参加者は、全部又は部分的に占有し、EXPO 2022 アルメーレのテーマと少なくとも 1 つのサブテーマに沿った展示を行う。
<p>博覧会後の取扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> •EXPO 2022 アルメーレ終了後、EXPO 会場は Hortus として再開され、未来のための緑豊かな、健康的な、都市の一部となる。

出所:AIPH 公式 HP(<https://floriade.com/en/>)

出所:BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/2022-amsterdam>)

出所: Floriade Website (English) (<https://floriade.com/en>)

出所: Floriade-brochure PDF (English)

(<https://floriade.com/en/participate-at-the-expo/downloads/>)

出所: BIE Website (English)

(<https://www.bie-paris.org/site/en/2022-amsterdam>)

出所: MVRDV Company Website (English)

(<https://www.mvrdv.nl/projects/23/almere-floriade-2022>)

図表 1 8 既往事例調査(18)

名称	EXPO 2023 DOHA 2023 ドーハ国際園芸博覧会(カタール) EXPO 2023 ドーハ		
会期	2023年10月2日～2024年3月28日		
開催国	カタール	開催地	ドーハ アル ビッド パーク
入場者数	約 300 万人		
規模	面積 170ha		
テーマ	Green Desert, Better Environment 緑の砂漠、より良い環境		
サブテーマ	<ul style="list-style-type: none"> • Modern Agriculture • Technology & Innovation • Environmental Awareness • Sustainability • 現代の農業 • 技術と革新 • 環境意識の向上 • 持続可能な開発 		
概要	<p>•2023 ドーハ国際園芸博覧会(以下、「EXPO 2023 ドーハ」という。)は、中東・北アフリカ地域で開催される初の国際園芸博覧会となる。2023年10月2日に開催される EXPO 2023 ドーハは、カタールの温暖な冬の間、170ha の敷地で、2024年3月28日に終了するまでの179日、開催される。EXPO 2023ドーハは、政策立案者から子供まで多様な参加者が予想されるため、会場では特別な展示、外交的な出会い、ビジネスミーティング、公開討論会、ライブショーなどが行われ、多面的なイベントを提供することになっている。乾燥した気候での、国際園芸博覧会の開催は、世界に大きな影響を与え、大きな遺産となることが期待されている。</p> <p>•2023年にカタールで開催される園芸博覧会のテーマは「緑の砂漠、より良い環境 (Green Desert, Better Environment)」で、砂漠化を緩和するための革新的なソリューションについて、ゲストや国際社会にインスピレーションを与え、情報を提供することを目的としている。最近の園芸技術の進歩により、砂漠環境や砂漠化の恐れのある土地の表面を「緑化」することが可能になり、世界的な水、エネルギー、食糧不足の問題に対処するための重要なイニシアチブが高まっている。</p> <p>•EXPO 2023 ドーハのテーマである「緑の砂漠、より良い環境」は、4つのサブテーマが設定されている。</p>		

	<p>「現代農業」 - 増え続ける世界の人口に対して、安全で持続可能かつ手頃な価格の食料を生産するための革新、研究、科学的進歩を提供する。</p> <p>「テクノロジー&イノベーション」 - 農業の生産性を高め、環境維持のバランスをとるために新しい技術を取り入れる。技術の進歩は、化学物質を多用する農業を大幅に削減し、回復力とエネルギー効率に優れた農法を確立する上で重要な役割を果たす。</p> <p>「環境意識」 - 環境に対する態度や行動の長期的な変化を促進するために、世界的な意識の向上を図る。これは、天然資源の保護を促進し、自然界とのつながりを感じさせ、持続可能な開発を促進するためのツールである。</p> <p>「持続可能性」 - 生物多様性や生態系のバランスと両立する現代の生活様式を維持すること。地球環境問題を認識し、将来の世代を尊重したライフスタイル、ビジネス慣習、政府の政策を変革するために、ローカル及びグローバルレベルでの異なるニーズのバランスをとるための共通の目的である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • EXPO 2023 ドーハの会場は、ドーハの中心部にあるアル・ビッダ・パークに位置している。現在、会場は3つの特徴的なエリアに分かれており、そのうち北部のエリアで国際イベントが開催される。 <p>国際エリア (70 ha) : 万博のゲートウェイであり、国際的な庭園、展示会、イベントの中心となるエリアである。</p> <p>ファミリーエリア (50 ha) : 家族で楽しめるアクティビティや集会、アウトドアレジャーの拠点となるエリアである。</p> <p>文化エリア (50 ha) : ドーハの歴史的な中心部に近く、オールド・フォートやオールド・ロックがあるため、文化的・伝統的な活動や展示に最適な会場である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新たに開発された2つの地下鉄駅(コーニッシュ駅とアル・ビッダ駅)と5つの大規模な地下駐車場により、アクセスにも優れている。現在、アル・ビッダはドーハで最も愛され、よく利用されている公共スペースの一つであり、その景観は成熟し、美しくデザインされており、様々な野生動物を魅了している。このような恵まれた自然条件と未開発の土地を併せ持つアル・ビッダは、このような一流の国際イベントを開催するのにふさわしい場所である。
--	--

出所:AIPH 公式 HP(<https://www.dohaexpo2023.gov.qa/en/>)

出所:BIE 公式 HP(<https://www.bie-paris.org/site/en/qatar>)

2-2 政府出展の意義・役割

2001年（平成13年）の「農林水産省設置法」では、農林水産省の任務について、「食料の安定供給の確保、農林水産業の発展、農林漁業者の福祉の増進、農山漁村及び中山間地域等の振興、農業の多方面にわたる機能の発揮、森林の保続培養及び森林生産力の増進ならびに水産資源の適切な保存及び管理を図ることを任務とする」としている。また、農業・畜産業・林業・水産業を所管することはもちろん、近年とみに注目を集めている「食料の安全・安定供給」や、農村の振興などもその役割と規定されている。

横浜国際園芸博覧会において、農林水産省として行うべき政府出展に関する役割や可能性のある展示について、国外既往事例調査（18事例）の結果を分析・評価も踏まえ、テーマ・コンセプト(案)及び出展内容(案)にて検討を行った。

(1) 国外既往事例調査（18事例）の分析・評価

4-1 国外既往事例調査及び、文献調査結果より、過去の園芸博覧会（以下、園芸博）分析を行い、いくつかの知見が得られた。

以下、年代別、2000年代以降の傾向、主な開催国別の状況、規模等の主な比較などについて示す。

➤ 1960年代

「緑化」と「国土開発」を目的としたイベントが行われ、来場者に緑化や自然とのつながりを意識させた。同時期に開催された園芸博では、特別な方法で設計された温室など、園芸に関連する建築文化が展示されており、ユニークなデザインのパビリオンは、それぞれの園芸博に特別な味わいを与えた。ライフスタイルは、1960年代のイベントではあまり指摘されていなかったが、万博では、ミニチュア列車やケーブルカーなど、さまざまな交通手段が明らかに存在した。農業や林業の分野では、新しい技術を取り入れることに重点が置かれた。

➤ 1970年代

エンターテインメントとレクリエーションが各園芸博で盛んに行われるようになり、家族で楽しめるプログラムやエリアが増えた。特に1972年フロリアード・アムステルダムでは、ゴンドラを使って来場者を会場内に運び、水の通路を通過して会場内のさまざまなエリアやセクションを見て回るという、新しいタイプの交通手段が導入

された。

他に、教育施設が充実し始め、来場者に園芸に関する興味深いプログラムを提供し、その国の文化を紹介した。

また、この時期にリサイクル素材という言葉が登場し、園芸博では国の計画に貢献するため基本的なリサイクル素材が使用された。一部の園芸博では著名な建築家による建築作品が展示された。

▶ 1980年代

人工衛星を用いた気象予測と、施設農業における温度管理システムの融合システムや、日照管理システムなどが主流であり、合わせて輸送のための定温管理ができる車両（トラック、鉄道貨物）の紹介も行われている。

また、教育・文化プログラムが引き続き強く打ち出され、園芸博の最も重要な目的の1つであるレクリエーションとエンターテインメントは、人々をリフレッシュさせ、コミュニティ間のコミュニケーションを高めた。

特に1984年リバプール国際庭園博覧会では、観光客を惹きつけ、観光客が都市に興味を持ち、園芸博が終わった後も再び訪れたいくなるような、忘れられない良い思い出を作るために、多くの準備が行われた。

▶ 1990年～2000年代

園芸博はより広い視野を持ち、世界全体に貢献するようになった。資源の誤用や廃棄物の無謀な管理など、自然や環境にダメージを与える多くの問題があったため、持続可能性や環境に優しい解決策が当時の多くの政府や国の話題となり、多方面から指摘することが不可欠となった。園芸を中心とした園芸博は、こうした事例や問題を独自の視点で取り上げるのが最適であり、それが1990年代以降、過去のほとんどの園芸博で実現してきた。

1990年代以降に開催された園芸博では、もう一つの重要な部分を取り上げられた。それは、貿易に焦点を当て、歴史に沿ったさまざまな植物の貿易プロセスの説明や、貿易ルートの説明など、植物、花、木などの貿易に関連するさまざまな事柄が行われた。

1999年昆明世界園芸博覧会は、まさに南アジアへの流通ルート開拓のための博覧会でもあった。これと同時に、当該国家の花き園芸農法の優秀さを示すものとして、

時代の最先端技術の展示も行われている。当初は当該地域で行われていた伝統的農法を基軸に、ハイテクを組み合わせたものが紹介されていたが、施設農法が主流であるオランダなどでは、完璧に管理された施設農法や品質を維持できる輸送方法の紹介などに変化している。

生産も 1990 年代から重要なテーマとして取り上げられ、さまざまな種類の植物や樹木の生産量を増やすためのさまざまな技術が紹介され、効率的で十分な生産量になるようにコントロールする方法も紹介された。高度な IoT 技術による品質管理システムや農法補助システムが多くみられる。

技術の進歩に伴い、エネルギーが大きな問題となり、園芸、農業、林業で使用されるさまざまな種類のエネルギーについて多くの説明がなされた。

人々のライフスタイルは、国際的な展示会を通じて主要なテーマとなり始めた。なぜなら、来場者は他の文化や彼らの生活に非常に興味を持っているからである。

植林・園芸分野の科学技術は、1990 年代以降のすべての園芸博において、実験室や新技術が追加され、植物、林業、農業の新技術が紹介し、議論された。

緑化、文化と文化イベント、リサイクル、レクリエーション、エンターテインメントは、直接的にも間接的にも社会や世界に貢献するものとして、1990 年代にも引き続き取り上げられた。

➤ 2010 年代

より包括的になり、多くのセクションに分かれて、多くのトピックが議論され、取り上げられた。

2000 年代にはあまり取り上げられなかったいくつかのトピックは、2010 年以降のイベントでは非常によく取り上げられた。例えば、リサイクル、観光、生産、建築など。これらのトピックはすべて、2010 年から波のように押し寄せ、より良い世界に貢献していると思われる後のイベントでも継続している。

2016 年アンタルヤ国際園芸博覧会では、「花と子供たち」をテーマとし、歴史、生物多様性、持続可能性、緑の都市をサブテーマとして、地球温暖化、エコロジー農業、生物多様性の保全、グリーンシティ、持続可能性、食料の安全保障などの地球環境問題に取り組むための国際的なプラットフォームを提供した。

他に、世界人口の増加に伴い、資源が限られてきており、特に最も重要な資源である「水」が重要視されている。水の重要性とその効率的な利用方法については、2016

年アンタルヤ国際園芸博覧会で大きく取り上げられ、その後のイベントでも再び取り上げられた。

また、2010年代以降は、通信技術の発達と3D技術、小型高速演算装置の開発（高性能PC等）の組み合わせによる農業支援システムが数多く展示され、国力を示すと共に商談にも大きな影響を持っている。

➤ 2020年代

園芸博の計画や概要を見ると、各園芸博でカバーすべきテーマが多すぎるのがわかる。多くのテーマを計画するのは良いことだが、来場者ができるだけ多くの利益を得られるように、いくつかのテーマにもっと焦点を当てることも求められる。

2023年ドーハ国際園芸博覧会では、「緑の砂漠、より良い環境」をテーマとし、砂漠化を緩和するための革新的な解決策について、来訪者や国際社会にインスピレーションを与え、情報を提供することを目的としている。

➤ 2000年代以降の特徴的な傾向について

・目立つIoT技術の展示

2000年以降では特に、花き園芸産業に関連して、農業の産業としての持続性を追求する展示が目立つようになっている。

農業の維持は各国の課題でもあり、魅力的な農業、すなわち効率化により高収入が得られる農業を模索するツールの展示に力を入れている。ここでツールとはIoT技術であり、農業とは直接関係が無いように見える情報産業が、農業分野に進出していることをみせる展示も多い。

具体的に現在では、5G通信や3D映像、人工衛星を利用した気象予測、ハイテクな温度湿度管理と光量調整、高速演算装置による生産高シミュレーション、最適な市場を選択するポートフォリオやゲーム理論を用いたシミュレーション、トラック等の最適配置・輸送管理システムなど、複雑で高度な理論とIoTシステムを、その国の国威として展示する傾向が顕著となっている。

・園芸技術から環境共生へ

政府出展では基本的な技術の展示、民間ブースでは商取引につながる新種の紹介や品質の高さを訴える展示と棲み分けが行われているようである。

SDGs の考え方は、2012 年フロリアード・フェンローあたりから徐々に顕著となっている。フロリアード・フェンローでは、持続可能性 (Sustainable) をキーワードとして政府展示会場を中心に 25ha の森林地帯を保全している (保護ではない)。

その後 2019 年北京国際園芸博覧会では、エコロジー文明をコンセプトとして「園芸は、人間が自然と対話するための言語であり、植物生産の芸術であり、緑の文化であり、生命の延長であり本質である。」と唱っている。

2023 年ドーハ国際園芸博覧会では、ギリシア時代からの貿易要衝地であったカタルの歴史とイスラム文化を紹介し、歴史の中で SDGs を実現してきた過程を説明している。テーマも「緑の砂漠 豊かな環境」であり、歴史 (人文環境) と共に自然環境を受容し、両環境と共生していく道筋を模索するとしている。

▶ 主な開催国の状況を見る

1807 年にベルギーで開催されたгент・フロリアが花の博覧会では最も古いとされるが、その後はイギリスを中心に園芸関連の博覧会が開催され (1862 年、1866 年、1913 年)、王侯貴族社会を背景に園芸、植物、庭園などの催しが続く。ここでは貴族の権力を示す方策として、当時の植民地等からもたらされた珍しい植物が展示されたという。

【オランダの状況】

オランダの国威をかけた花き園芸博覧会。イギリス、フランスへの対抗と農業立国としての特色づくり。

オランダでは 16 世紀以降、国策として花き園芸植物の種苗と販売を行っており、かつては 17 世紀半ばにチューリップバブルといわれる出来事もあったが、国全体の農業が占める割合では最大時で GDP の 25%、農業に従事する生産人口は 10% (1995 年) となるまでに発展する。

1807 年にベルギーで開催されたгент・フロリアが花の博覧会では最も古いとされるが、その後はイギリスを中心に園芸関連の博覧会が開催され (1862 年、1866 年、1913 年)、王侯貴族社会を背景に園芸、植物、庭園などの催しが続いていく。この時代の花き園芸博覧会では、王侯貴族の権力を示す方策として、当時の植民地等からもたらされた珍しい植物が展示されたという。

ガーデニングの技術や美しさ、完成度を競ったイギリスやフランスと異なり、ガーデニングに用いられる植物に着目したのがオランダであった。当時は既に多くのオランダ植民地がイギリスやスペインなどに凌駕され、オランダにおいて海

外からの植物輸入には限界があった。そこで国内で品種を改良し、植物の品質を高めて商品価値を見いだす戦略が登場する。

1925年にはじめてオランダでフラワーショーが開催され、商取引は大成功であったという。この成功は、その後のフロリアードの開催に大きな影響を与えている。1960年のフロリアード・ロッテルダム開催以降、1983年まで博覧会はオランダとドイツで開催され（Aクラス開催）、イギリスがバラの国として国威をかけて開催するのは1984年のリバプールであった。

世界大戦を挟んで、1925年から1983年までの時期に、オランダでは花き園芸に関する生産と流通のヨーロッパにおける主導権を得たといえる。国策としての花き園芸と農業は、戦後オランダの経済復興に大きく寄与し、外貨を獲得する一大産業となっていく。オランダにおける花き園芸栽培が停滞期から減衰期を迎え、各農家、企業では経営の効率化と販売のための協同組合の再編、流通の統廃合などの工夫をしていた。これに加え近年では、ヨーロッパ南部（地中海沿岸部、スペイン等）やアフリカの台頭により、花き園芸生産物の競争が激化している。

こうした中でもオランダでは、花き園芸生産の伝統を重視し、ハイテクを駆使した施設栽培による品質管理の徹底など「花の国オランダ」の威光を維持しようとしてきた。その現れのひとつが、定期的で開催される国際花き園芸博覧会であり、世界に集客力を持つオランダでの博覧会では、人々を楽しませるのと同様に、国策として「花き園芸生産物の販売」を重視している。

政府出展の柱は、IoTやAIを用いた高度な管理体制による均一な生産技術であり、開催の度に施設栽培上用いられるハイテクを紹介している。これと同時にオランダでは、アムステルダム以外の地方都市の活性化のために、開催地を変えながら、当該地方に栽培技術を展開させ、農業を保護しながら技術の移転を進めている。また流通ルートの開発も行っており、博覧会の開催を契機として、交通網の整備や新交通システムの導入、トラックなどの大型流通拠点の整備も行っている。

【ドイツの状況】

社会学者のルシウス・バルクハルトは、その著書（自然と地域の建物、1981）の中で、定期的な園芸博覧会の開催は「ふたつの大戦で興廃した国土再建と戦後復興に貢献した。」と記している。

ドイツでの最初の園芸博覧会は1865年のエアフルトでの開催である。当時のヨーロッパはウィーン体制末期であり、ビスマルク体制が確立され、やがてウィ

ルヘルム 2 世の統治に移行していく。神聖ローマ帝国時代の 30 年戦争を経て、この時代に急激に経済力を増したドイツは、ハプスブルク家伝統のひとつである珍しい植物や果実、宮廷庭園によって権威を示そうとする。フランス、イギリスで注目を集める花き園芸博覧会に注目し、20 世紀初頭まで国家主催の博覧会が開催された。

ふたつの大戦を経てドイツ国土は荒れ果て、国際園芸博覧会は 1953 年のハンブルグ開催まで中断されるが、花き園芸に対する育苗や栽培ノウハウは生き続け、1963 年にハンブルグで大規模な国際園芸博覧会が開催される。この時は花き園芸産業の振興と、各都市の再建、環境への配慮といった目的があり、開催都市も戦後のヨーロッパにおける流通拠点であったハンブルグでの開催となっている。

IGA (Internationale Gartenbauausstellung) は、国際花き園芸博覧会を意味するドイツ語の頭文字であり、ドイツ政府公認の国際花き園芸博覧会であることを示す。オランダでの国際花き園芸博覧会が、概ね×××0 年(10 年毎)の開催であるのに対し、IGA は×××3 年(10 年毎)の開催を基本としている。オランダ、ドイツ両政府の話合いにより国際花き園芸博覧会が重ならないように調整されている。1960 年にオランダで開催されたフリアード・ロッテルダム以降、1990 年大阪の花と緑の博覧会までの約 30 年間は、オランダとドイツ 2 国が中心となって定期的に開催された。

オランダが国威をかけて花き園芸にこだわったのに対して、ドイツでは戦後の地域振興、花き園芸農家保護と流通の確保による経済振興が主目的であったことがみてとれる。近年のドイツでの国際花き園芸博覧会の特徴では、環境問題への取組のひとつ、あるいは SDG's 実現の一手法としての花き園芸に着目している点が上げられる。2003 年の IGA ロストック、2013 年の IGA ハンブルグ、2017 年の IGA ベルリンでは、脱炭素政策の一環として二酸化炭素の吸収に花き園芸の振興が寄与する内容の展示を行っている。

【中国の状況】

1999 年の中国昆明の博覧会は、当初北京での開催が予定されていたが急遽昆明に変更された経緯がある。区域の大きさでは博覧会の歴代 2 位、入場者数でも歴代 2 位で 1000 万人近い集客をみせた。昆明での開催は、ベトナムやミャンマーなど南アジア方面への流通ルート開発と、農産物を中心とした集積の拠点化づくりにも寄与したと考えられ、その後中国の南アジアへの影響力が大きくなっていくことを考慮すると、昆明での開催は大きな意味を持っていたと考えられる。

さらに習近平体制で示された「一帯一路」構想やアジアハイウェイ構想は、こうした布石があって実現を目指せる段階に来たと思われる。

➤ 規模等の比較

①区域の規模

- 区域の面積では 2019 年中国北京の 503ha が最大で、次いで 1999 年中国昆明の 218ha となっており、次いで、2023 年カタールドーハの 170ha、2016 年トルコアンタルヤ 112ha、2003 年独ロストック 100ha、となっている。
- 全体の平均は 110.4ha。
- 6 位以降の 13 地域は 50～95ha で比較的小規模。この 13 地域の平均は 68ha。

図表 19 開催区域 ベスト 5

開催年	国	都市名	面積 (ha)
2019	中国	北京	503
1999	中国	昆明	218
2023	カタール	ドーハ	170
2016	トルコ	アンタルヤ	112
2003	ドイツ	ロストック	100

②入場者数

- 入場者数では、1983 独ミュンヘン 1160 万人が最大で、1999 中国昆明 943 万人、中国北京 934 万人、1993 独 Stuttgart 730 万人、1973 独ハンブルグ 580 万人。
- 全体の平均は、492.8 万人。
- 6 位以降の 13 地域の平均入場者数は 348 万人。

図表 20 入場者数 ベスト 5

開催年	国	都市名	入場者数 (万人)
1983	ドイツ	ミュンヘン	1160
1999	中国	昆明	943
2019	中国	北京	934
1993	ドイツ	シュトゥットガルト	730
1973	ドイツ	ハンブルグ	580

③国別開催頻度

- 開催国の頻度では、オランダ 7 回、ドイツ 5 回、中国 2 回、イギリス・タイ・トルコ・カタールが各 1 回。

2-3 テーマ・コンセプト(案)及び出展内容(案)検討

国内外の過去の園芸博覧会及びこれまでの具体化検討委員会の検討内容等を踏まえ、政府出展のテーマ・コンセプト(案)、出展内容の検討を行った。

2-4 経済波及効果検討

経済波及効果の検討にあたり、2019年に産業連関表を用いて試算を行ったところであるが、横浜市が想定している数値や観光庁等が公表している数値など、前提条件となる数値の更新を行い、再度、分析・検討を行った。

2019年実施の試算では「生産誘発額」のみであったが、今回はモデルを拡張して「雇用増」及び「GDP増（その元になる粗付加価値額）」についても算出を行った。また、「生産誘発額」、「粗付加価値額」、「雇用増」については、横浜市が公開している横浜市産業連関表「経済波及効果分析ツール」で計算される「直接効果+一次波及」のみとし、「二次波及効果」は含めていない。以下、経済波及効果の試算結果を示す。

➤ 新規需要

図表 2 1 横浜国際園芸博覧会 新規需要

建設投資（敷地内の施設の建設）：主催者による建設	320 億円
運営管理費：主催者による運営費	360 億円

（有料来場者数 1,000 万人）

➤ 経済波及効果

図表 2 2 横浜国際園芸博覧会 経済波及効果

生産誘発	8,080 億円
雇用増加	75,700 人
GDP 増加	3,930 億円

3. 国際イベント等における情報発信の検討

3-1 情報発信方法の検討及び広報資材の企画・作成

(1) 過去のイベント・博覧会等における広報戦略

2027年に横浜市で開催される国際園芸博覧会の広報の内容と規模等を想定するにあたり、わが国で過去に開催された二つの国際博覧会の状況を概観する。1990年に大阪市で開催された「花と緑の博覧会」（以下、大阪花博）と2005年に愛知県で開催された「愛・地球博」（以下、愛知博）を取り上げる。

①規模

最終的な入場者数は、どちらも2000万人を越えている。全体の費用と広報にかかる費用については、物価の上昇等があり単純な比較はできない。大阪での開催から愛知での開催まで15年経過しており、愛知博の開催から2027年横浜での開催まで22年あり、金額ベースでの比較は難しいが、全体費用における割合では、大阪花博の場合1.4%であり愛知博では4.8%であった。

図表2-3 過去の博覧会の規模

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
入場者数	2313万人	2200万人
全体費用	1900億円	2560億円
広報費用	26.27億円	124億円

出典：国際花と緑の博覧会 公式記録 (財)国際花と緑の博覧会協会
2005年日本国際博覧会 公式記録 (財)2005年日本国際博覧会協会

②記念行事

両博覧会共に1000日前イベントなどを開催している。開催回数は大阪花博の場合9回で、愛知の場合よりも多い。大阪花博の場合は、オフィシャルエアラインであった日本航空、全日空、東亜国内航空（当時）の機体に「EXPO'90」のロゴを入れた。大阪千日前でパレードを行ったり、ちびっ子記者鶴見緑地見学会なども催されている。

愛知博でも同様のイベントが開催されている。特徴としては、名古屋を中心に各種イベントが行われており、大阪や東京でのイベント開催は多くない。

図表 2 4 記念行事の開催頻度

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	〇〇日前イベントなど	〇〇日前イベントなど
回数	9回	6回

③各種行事への参加

地方博や見本市への参加に関しては、大阪花博の場合、天王寺博、グリーンハーモニーさいたま’87 など、関西に限らず積極的に地方での博覧会やイベントに参加している。一方愛知博の場合では、地方博への参加は少ないが、愛知県内の自治体が主催するイベントを中心に積極的に参加しており、集客ターゲットを中京圏に絞り込んでいることが伺える。

図表 2 5 各種行事への参加

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	地方博、国内見本市 タイアップイベント	地方博、国内見本市 タイアップイベント
回数	地方博 10箇所 見本市 5箇所	地方博 4箇所 イベント等 260箇所

④屋外看板等

屋外看板等に関しては、1990 年から 2005 年までのデジタル機器の普及と進化を反映して、愛知博の場合では高度なデジタル機器を用いた屋外広告が採用されている。屋外広告に最新の機器を用いることも、未来を志向する博覧会のイメージ形成に役立っていると思われる。

ここでも大阪花博と愛知博では、市場に対する考え方の違いが出ている。大阪花博の場合は関東を意識して府中や中山の競馬場、東京ドームに屋外看板を設置した他、東京駅八重洲、上野駅、渋谷駅に屋外看板を設置している（新宿、池袋にはなかった）。一方の愛知博の場合は、JR 東海の各駅と名鉄の主要駅を中心に中京圏に力を入れている。

図表 2 6 屋外看板等の状況

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	電飾ボード等 バナー	電飾ボード等 デジタルサイネージ
場所	大阪駅前、中央競馬場、東京ドーム、甲子園球場、 東京駅、上野駅、渋谷駅等	JR東海の各駅、名鉄主要駅

⑤webによる広報活動

ここでも時代の違いが出ている。両方の博覧会共にホームページを作成し多言語対応している。2005年の愛知博では、ホームページの内容も動画を使うなど多彩であり、翻訳された言語数も多い。中でも大阪花博では単に中国語とされたが、愛知博では繁体字と簡体字に分けている。さらに愛知博では、メディアのために公式写真のデータベース（フォトバンク）を備えており、現在でいうデジタルアーカイブである。しかし愛知博でも、まだsnsによる広報は登場していない。

図表 2 7 webによる広報

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	ホームページ	公式ホームページ フォトバンク
特徴	当初は日、英 その後、中、韓、西、独、仏	当初は日、英、独による内容 その後、仏、西、簡体、繁体、韓に拡大

⑥ポスター

ポスター制作と掲示は、圧倒的に大阪花博の方が力を入れている。大阪花博では5回にわたってポスター制作を行っており、総配布数は53万部におよぶ。

図表 2 8 ポスターによる広報

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	第1号ポスター：B全判、B2 9万部 第2号ポスター6種：B全判、B2、B3 10万部 第3号ポスター：B全判、B2 8万部 第4号ポスター：B全判、B2 7万部+海外向け3万部 第5号ポスター：B全判、B2 10万部 イメージイラストポスター 10万部 こども絵画コンクールより 3万部	ポスター8種 オリジナルグッズ8種

⑦各種印刷物

各種の印刷物も大阪花博の方が多。愛知博では、web の活用を中心にしたのか、パンフレット類のバラエティーも少ない。

図表 2 9 各種印刷物による広報

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	花の万博ニュース A4 8ページ パンフレット 概要パンフレット A4 12-42ページ 1-6号 36.5万部 概要リーフレット A4 四つ折り 25万部 花の万博小辞典 手帳サイズ 300ページ 1.3万部	愛・地球博だより: 4回/年 16万部 パンフレット

⑧プロモーションキット

大阪花博では、プロモーションキットとしてのツールの種類や量が多い。大阪では、PR ビデオを英仏など 8 カ国語版制作し、4000 本を配布している。PR パネルについても各種イベントやロビー、店舗展示用として 36 セット制作し 300 件の無料貸出を行っている。マスコット人形などノベルティーの種類も多彩で、海外を含めて広く配布され、大阪花博への関心を高めることに役立ったとしている。大阪市内の地下鉄とタクシーの窓用に制作されたステッカーは、大阪をあげて博覧会を開催するという機運の盛り上げに大きく貢献したとしている。

図表 3 0 プロモーションキットの内容

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	シンボルマーク キャラクター 公式ガイドブック PRビデオ 4000本 英、仏、独、露、中、西、アラビア PRパネル 36セット 300件の貸出 会場模型 3基 マスコット人形、残日計付きパネル、スライド、PR用 写真、窓用ステッカー(地下鉄、タクシー)、タイピ ン、カフセット、スカーフ、コースター、鉛筆、Tシャ ツ、うちわ、花の種、シール、バッチ	シンボルマーク キャラクター 公式ハンディーブック(日、英) 公式ガイドブック パンパク探検隊(子供向け) PRビデオ ピンバッチ 卓上のぼり 懸垂幕

⑨各種協賛による広報

記念タバコの発売や記念宝くじなど、各種協賛による広報も大阪花博では盛んに行われた。愛知博では全国四紙をはじめ地方誌にも 15 段 (1 面) の広告を出し TV の

スポット広告も 1000 回を越えたが、協賛広告の種類は多くない。大阪花博では、テーマソングの公募や絵画コンクールなども積極的に行われている。

大阪花博よりも愛知博の開催時の方が、IT 技術が進んでいることもあって、インターネットを用いた広告などが目立っており、物理的な材料による広報素材よりも、ソフト的な広報素材の制作に力点があるように思われる。

図表 3 1 各種協賛広報

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	記念タバコ 花ずきんちゃん公衆電話 TV電話の設置 屋外広告: 電照式看板、電飾看板、カウントダウン計、立体花壇、残日計、ビル壁面看板等 新聞・TV等: スポット広告等 募集企画: テーマソング、絵画コンクール、日本銘木百選 記念宝くじ 各種イベントへの参加	新聞広告: 66紙 15段 TV: スポット広告 1000回 映画館: スポット広告 86映画館 インターネット広告

⑩海外広報活動

大阪花博では、1986 年のユーロ・フローラをはじめ、19 の博覧会に参加しており、積極的に海外に情報発信を行っている。愛知博では、BIE の総会での PR の他に 1998 年のリスボン博覧会、2000 年のハノーバー博覧会、2002 年のオランダ・フロリアード園芸博覧会、同じく 2002 年ヨハネスブルグでの世界首脳会議（サミット）の 4 つだけであった。

図表 3 2 海外博覧会への参加

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
参加した博覧会	19箇所	4箇所

⑪海外への広報

大阪花博では、海外の国際博覧会、国際園芸博覧会、国際旅行見本市などへの広報参加や海外キャラバンを実施した。その他、アメリカ、イギリスの特別番組「庭—完成された自然—」に参加し、博覧会の理念を PR した。韓国ソウルの金浦空港には大型の電飾看板を設置している。

愛知博では、海外からの来場促進のために PR 活動を積極的に行っている。アジア

ではソウル、香港、上海、台湾、大連、北京、タイで14回にわたって説明会を実施した。アメリカではニューヨークで2回、プレゼンテーションを行い、ヨーロッパではドイツ、パリ、ロンドン、フランス在仏外国人記者クラブで記者会見と説明会を行い、博覧会の認知度向上に貢献した。ここでは海外の博覧会に参加するよりも、民間ベースで広報を行う姿勢がみえる。

愛知博は、国がビジットジャパンキャンペーンを実施した時期と重なり、対日観光誘致活動と連動した広報活動となった。この中でJNTOの海外オフィスや在外公館などさまざまな機関と協力して広報ツールの配布やPRを実施している。

図表 3 3 海外海外への広報

	1990 大阪 花と緑の博覧会	2005 愛知 愛・地球博
内容	海外キャラバン 募集企画への参加 TV番組の制作協力 米、英で特別番組 看板広告 ソウル金浦空港 新聞・雑誌への投稿 海外向け印刷物 ノベルティー配布	公式ニュースレター：3回/年 大使館等、参加国 中国、台湾、韓国：説明会14回 欧州、米国：説明会6回 JETRO：29カ国、52都市 ビジットジャパンキャンペーンとの連携 リーフレット、ポスター、PRビデオ 新聞への投稿：8紙 雑誌への投稿：7紙 TV：CNN(米国、欧州、アジア) 270本 機内放送：Cathay Pacific 交通機関：パリ：地下鉄・バス ニューヨーク：タクシー

(2) 情報発信方法の検討

情報発信は、イベントの宣伝や内容を発信するのではなく、発信した情報が多くの人に理解されることが重要となる。そのためにはコミュニケーションがキーワードとなる。同時に、いかに地域を巻き込んで花博遺産を残すことも求められるため、このイベントを一過性のものにしないよう、今から根強い地道な準備が求められる。

ここでは、これまで検討されてきた計画案を基に、コミュニケーション、SDGs と Society5.0 の考え方をベースに、図表 3 4 から図表 6 9 のとおり具体的な方法を提案している。